

70th International Astronautical Congress

第70回国際宇宙会議

開催期間:2019年10月21日~25日

開催地:アメリカ合衆国ワシントンD.C.



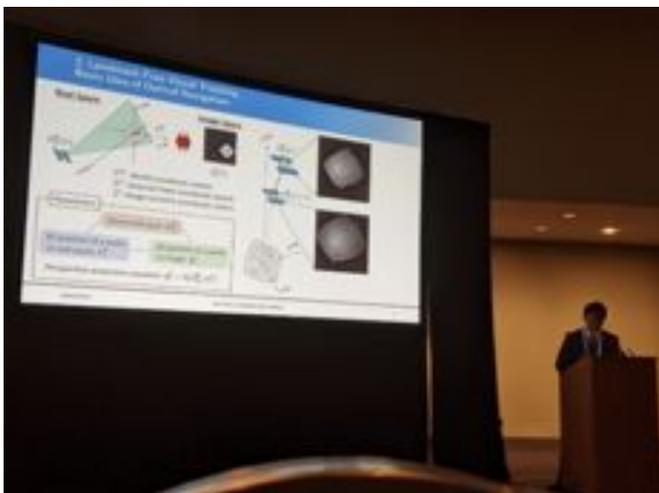
東京大学大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻
博士課程3年 高尾勇輝

この度、宇宙科学振興会の支援を受け、2019年10月21日から10月25日にかけて、アメリカ合衆国ワシントンD.C.にて開催された第70回国際宇宙会議(70th International Astronautical Congress)に出席し、Technical Sessionにおける口頭発表を行いました。本学会は、世界の宇宙機関や企業、大学などの研究機関から、毎年4000人以上の関係者が集まる、宇宙分野において世界最大規模の会議になります。私は本学会にて、小惑星探査機はやぶさ2プロジェクトに関連した応用研究の一つとして、小惑星着陸のための画像処理を用いた自律航法に関する講演を行いました。この画像航法のテーマは、世界中で活発に研究されている分野であり、現在も多くの研究者が注目しています。私自身の講演についても、終了後に複数の研究者から声をかけていただき、ディスカッションや論文の交換などを行い、大変有意義なものとなりました。昨今では、はやぶさ2やOSIRIS-RExなど小惑星探査を行うミッションが注目されており、それに伴って、小天体周りにおける宇宙機の誘導航法制御の重要性はより高まりつつあります。将来ミッションにおいて完全自律での降下・着陸を果たすことは、当該分野の研究者・技術者の長年に渡る目標の一つであり、その目標の実現に向けて確かに技術が進歩していることを実感することができました。

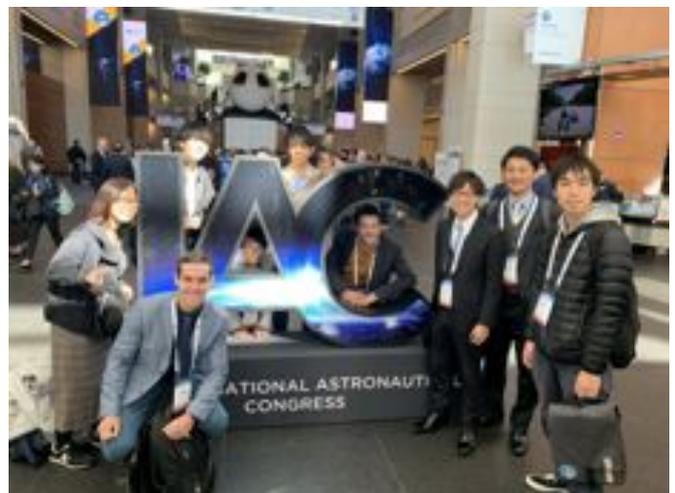
また、本会議はLockheed MartinやBoeingをはじめとする世界最大手の航空宇宙関係企業、そしてNASAやESA、JAXAなど各国の宇宙機関が一堂に会し、様々な展示を行うことで有名であり、私も実際に多くのブースを訪問しました。日本国内だけではなかなか見ることのできない、各分野で最先端の技術に触れることができ、一人の研究者・工学者として刺激を受けたとともに、改めて自分自身の宇宙開発に対するモチベーションを確認することができました。

そして何よりも、本年はアポロ11号の月面着陸から50周年という記念すべき年であり、関連した多くのイベントが開催されました。中でも、アポロ11号のパイロットであり、実際に月面歩行を行ったBuzz Aldrin氏の講演は非常に印象的でした。アポロミッション当時の様子や、今後の宇宙開発に対する思いなどの話は感慨深く、私自身は未知の世界を開拓することに憧れ宇宙工学の道を志したこともあり、実際に人類未踏の地を切り開いた先駆者の言葉は、胸に刺さるものでした。

以上に述べた通り、本国際会議へ出席できたことは、私にとって極めて有益な経験となりました。今回の旅費支援によって、これほど実りのある会議へ参加する機会を与えていただいた公益財団法人宇宙科学振興会および関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。



筆者の講演の様子



学会参加者との交流(筆者は右から2番目)